

山川海を乗り越えて

— 鉄王国越中を往く —

越中を禪なんてのたまう輩は明治・大正世代。越中は県都富山市ライトレール成功で日本中の鉄ファン大注目。新幹線からトロッコ鉄道と実に多彩な鉄風景。そのバラエティは美しき山河とともに、越中を形作っている。
〈三級鉄乗りファン・銭屋小金丸〉

■余と越中

東人である余が越中を知ったのは、置業と『黒部の太陽』。中学生の頃、学校動員で見させられた。「世界のミフネ」「裕チャン」活動写真は、汗と涙の結晶で〈頑張れニッポン〉。まさに昭和そのもの。のちに関電が社運をかけた大事業と知り立志伝経営者記念館は城崎温泉にある。二十代取材で黒部にお邪魔。偉業だがわずか三十数万キロワットのためにこれほど大開発したのかとも感じた。今なら無理。このちロケ取材で高岡・砺波を訪れた。研究員時代富山市出身アシスタントに話を聞いたら同級生半分が関西関東に出るらしい。90年代前半高岡市委員に委嘱され数度高岡市を訪れた*1。読売・巨人軍創設者正力松太郎がこの地の出身者ということを知った。度々往くたびに少しずつ鉄に乗った。ライトレールができてからは数年に一度は訪ねている。関西出張でわざわざ富山経由で帰った事も三度。越中は立山、特に富山湾からの眺めは筆舌に表せない。

■越中の地勢

北陸道は「越の国」で、のちに越前・越中・越後に分割されいくたび、区域が変わった。のちに越前から加賀・能登が分離。東は越後、西は加賀、南は飛騨、一部信濃。越中の特色は東・南が立山・黒部さらに飛騨山脈と二〜三千メートル級の山々が屏風のように立ちはだかり、そこから日本海に向けて五十キロ程度の平野に多くの川が流れ込む。明治になってオランダ人技師*2が「これは川ではない滝だ」というセリフはあま

りにも喧伝されている。もう一つは駿河湾同様、富山湾は千メートル級と非常に深い。だから駿河湾／サクラエビ、富山湾／白エビ・ホタルイカのような海産物に恵まれている。富山湾名物は蟹気楼。冬は日本海からの風波で富山湾は荒れ、山沿いは大雪となる*3。

■越中の歩み

『万葉集』編者と見なされる大伴家持が、越中守として高岡伏木在住。歌が多く残る。二上山＝大和と思っていたら、越中にも二上山があった。古代はしばしば渤海使者などがどんぶりこと流されて来た。平家物語では信州・越後・越中と進撃した木曾義仲が、加賀との国境・倶利伽羅峠で平家軍撃破し京に上った。鎌倉・室町期で特筆されるのは隣国加賀と同じく浄土真宗／一向宗門徒勢力が浸透し、越中人氣質に色濃く根付いた。そのせいかな戦国期は有力大名が

〈図表1〉阿波の主な人口

富山県	102.4万人	
富山市	40.8	県都
高岡市	16.5	
射水市	9.1	
南砺市	4.7	
砺波市	4.7	
氷見市	4.4	
黒部市	4.0	
魚津市	4.0	
滑川市	3.3	
小矢部市	2.8	

(公益財団法人 国土地理協会2023年4月調査を元に作成)

育たず、東から謙信公、ついで柴田勝家率いる織田勢に席卷され、魚津城上杉軍は全滅。越中は織田一家の佐々成政が納めた。成政は越中暴れ川の治水事業に手を染めた偉大な先覚者。これがのちの江戸期の<米どころ越中>を作る。成政肥後移転後、越中は前田家領土となり、江戸時代加能三国の大藩が成立。三代利常の時、越中富山十万石、加賀大聖寺七万石を分家。加能越もとても豊かな越中人に、対加賀意識を強く植えつけた。富山といえば殿様考案の越中薬売り／置薬で、余の子供時分には家にも来ていた。千葉のおばさんやフツの御用聞きと違って不思議な存在。ここから越中富山＝薬となるが、最近プロ薬*4メーカーは製造不祥事が目立つ。明治維新後石川県に併合されたが、越中は分離独立をはかり、今に至るまで独立運動が県庁や教材で強調されている。隣国加賀との対抗意識「越中モンロー主義」はあまり感心しない。少年少女よ、もっと大志を抱け!!

大正時代魚津・滑川で主婦たちを中心とした米騒動勃発し、全国に流布。なを常陸山・双葉山の影に隠れているが、富山呉羽出身・太刀山は明治大正の大横綱。

■現況

越中面積は隣国越後の三分の一。御多分に洩れず人口減少。平成大合併で自治体も少なくなった。まもなく百万人を切るかも。以前は県都富山と高岡の二大都市だったが、富山市が南部山岳地帯の町村合併で人口増に見える(浜松・静岡と同じ構造)。都市人口の場合、集中度の方が重要。

近代化以来、鉄道・港整備に注力し、伏木港は国際貿易で日本海主要港。対ロシア中古車輸出はここが中心(現在は輸出規制)。近代産業は水力発電を生かした化学・金属産業が育った。特にアルミ加工はYKK、三協といった世界的メーカーを排出。化学工業も盛ん。農業はコメ以外に砺波チューリップ栽培(県花)が知られている。漁業は富山湾寒ブリ。伝統工芸は高岡銅器・漆器。祭事では高岡の祭り(山車

見事)・八尾町(現富山市)「おはら風の盆」が知られている。

■越中の鉄

越中铁は東西を結ぶ旧北陸本線＋北陸新幹線を軸に、南北に伸びる様々な鉄ネットワーク。

▶三セク「あいの風とやま鉄道*5」＝旧北陸本線／富山部分。旧国鉄では近江米原－越後直江津を結ぶ日本海側重要路線。明治十五年(1883年)近江着工。全通は大正二年(1913年)。一昔前難所<親知らず>が海に迫っていた頃、夜行急行で金沢初訪問。越後湯沢から快速160キロ、特急で富山入り。大雨で小松空港が使えず、長岡で新幹線乗り遅れなんていう事も懐かしい。現在の三セクは越中宮崎－石動だが、金沢から富山への直行便もある。富山市に近づくとつれ、黒瓦の立派な木造建築が目立つ。

▶北陸新幹線＝長野五輪前年(1997年)、高崎－長野間が開通。さらに2015年金沢まで延伸し、今年3月敦賀まで開業予定。越中では黒部・宇奈月温泉、富山、新高岡三駅開設。富山は既存鉄道やLRTと一体化、すこぶる便利。一方新高岡駅は在来駅と離婚。グランクラスがある一方、整備新幹線規格は遅い。越後から越中に入ると左に立山連峰、右に日本海、朝の風景は素晴らしい。

【富山】

●JR高山本線＝岐阜－富山を結ぶ我が国屈指の山岳路線。大正九年(1920年)高山線が開通、全通は昭和九年(1934年)。ここも思い出深い。お世話になったD映画社Nプロデューサーと岐阜・高山と博覧会をはしごした。富山からは駅を出ると左に大きくカーブ、しばらく平野部を走り次第に山深く分け入る。越中八尾は風の盆。次第に神通川やダムが増えてくる。猪谷駅でJR西日本は終わりで、ここからJR東海ナワバリ。無論隣国飛騨はより山深く見応えあり。色々議論計画あったものの、結局電化中止ディーゼル特急のみ。最近では高速バス競合が厳しく、形勢不利。またコロナ直前

は中国人海外観光客が目立っていた。

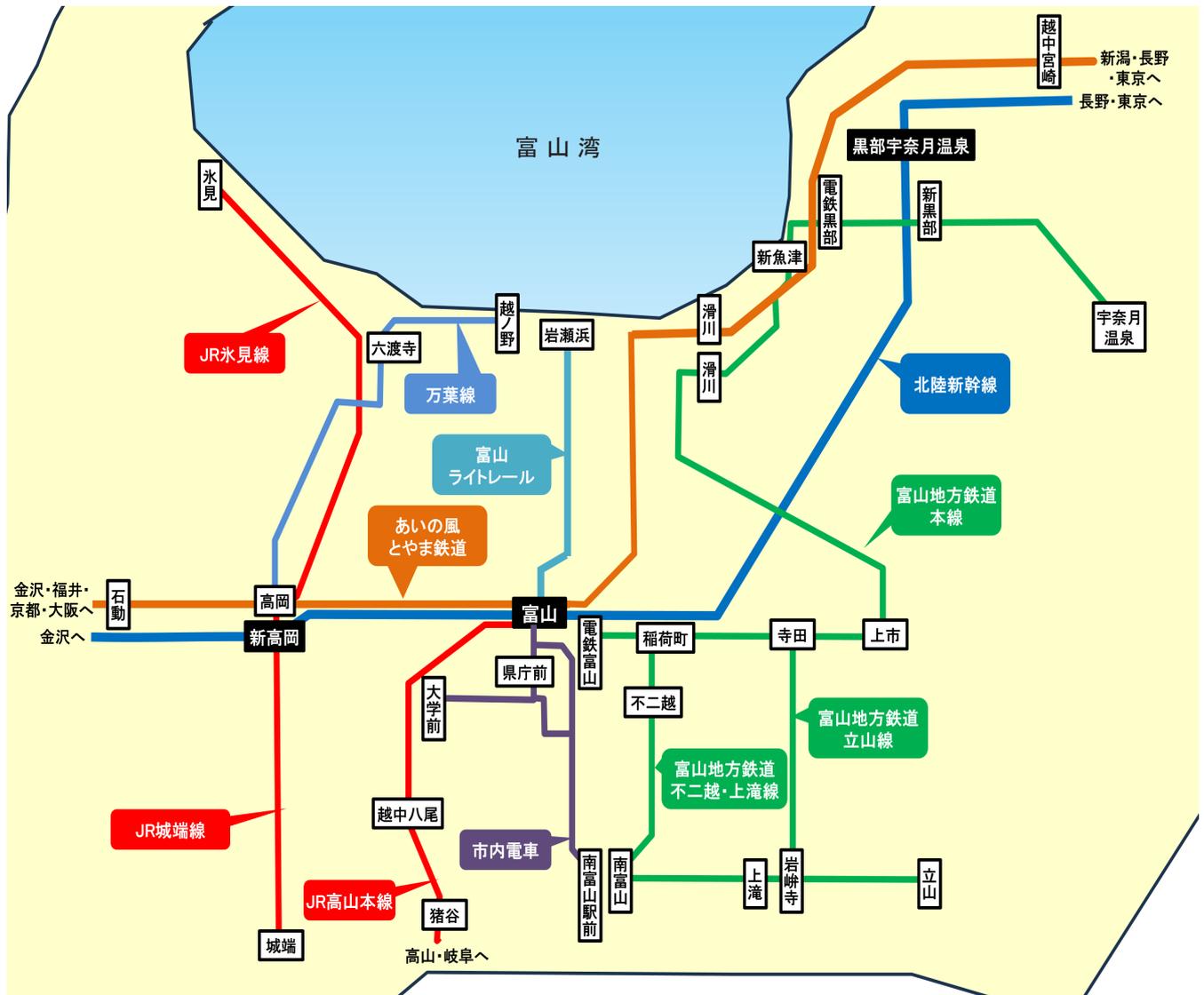
●電鉄富山(富山地方鉄道) = 戦前の富山電気鉄道を母体に戦時中昭和十八年鉄道・路面電車・路線バスが統合してできた富山地方鉄道。富山市内の路面電車・バスはもとより、越中に広く鉄を展開。JR富山駅の東側に電鉄富山駅がある(大阪のJR駅と阪急・阪神駅そっくり)。

<本線> = 寺田、上市を経て滑川、新魚津、電鉄黒部と旧北陸本線の南側そして魚津の手前から北側をほぼ並行して走る。駅によっては周りに

人家がないので降りてびっくり。電鉄黒部からしばらくして新幹線の下をくぐり新黒部。ここから山岳観光列車で宇奈月温泉に至る。路線53キロと長い。

<不二越・上滝線> = 電鉄富山駅隣の稲荷町駅から南富山駅まで市内3.3キロ。昔は繁華街だったが、南富山駅は今では場末感がプンプンと漂う。さらにここから岩辨寺まで東南に伸びるのが上滝線で17.キロ。南富山からしばらくすると市街地から郊外田園地帯さらに山に近づく。

<図表2> 越中鉄道図



(江古田鉄道研究会©)

<立山線> = 本線の寺田駅から南下岩峯寺から東に向かい立山駅まで34キロと長く途中からは山岳路線。余は岩峯寺までしか乗ってない。ここの二階建駅舎は映画ロケでもよく使われる。ただし一日の利用客は数百人程度。閑閑

<富山港線> = 2006年に富山ライトレールが開業し今日のLRTブームのきっかけとなった。この路線は富山市と港を結ぶ目的で開通したが戦時買収で国鉄が永らく運営していた。路線の一部が路面電車。ライトレールは当初富山駅北口から発車していたが南の路面電車と直通し2020年富山地方鉄道経営に移管。沿線は運河沿いが多く学校・住宅・競輪場の他江戸期船問屋、寿司名店があり地元民のみならず観光客も多い。路線は岩瀬浜駅まで6.5キロ。

<富山市内路面電車> = 小ぶりだが松山や熊本同様市内南部に広く展開している。富山駅から南下県庁前・大手町を通りから西に向かい川を渡り富山大学へ。これと反対に富山駅から東に世界センター前からひたすら南下し南富山駅に至る路線。ここは数年前乗ったら路肩が悪く、ひどく揺れた。脱線大丈夫か？もう一つは丸の内から城を一周する周回路線。なを富山市はコンパクトシティを称しているが、旧アーケード街は全滅に近い。

【高岡】

前田家二代藩主利長公隠居城は、立派な石垣を持つ寺(瑞龍寺)に変身。

●JR城端線 = 高岡から城端までの30キロ路線。越中最古鉄道で明治三十年(1897年)開業。高岡から南南西に向かう。高山本線から山二つ越えた盆地。チューリップ栽培で有名な砺波平野を経て城端へ。ここから(バス・徒歩で)加賀藩秘境五箇山*6に至る。二十数年前乗った時は、確か二両編成ディーゼルだった？春で花々が美しくなだらかな山村が素敵。

●JR氷見線 = 能登半島の付け根に位置する氷見市と高岡を結ぶ路線。高岡駅から北上し、そのあ

とは風光明媚な富山湾沿いを北上する。氷見は万葉集でうたわれ氷見うどん(美味)、寒ブリ(ちょー美味)で知られる。夏冬二度乗ったが、風景の落差に驚かされた。路線は16キロあまりで非電化。

●万葉線 = 高岡市と射水市を結ぶ路面電車+鉄。戦前鉄道として作られ、戦後高岡の路面電車が整備され、現在は一体化し万葉線となっている。三十年前乗った頃はオンボロ路面電車だったが、現在はLRTに変身。高岡駅前を出て北東に進み、六渡寺からは海沿い(港沿い)を東進する。高岡市の路面電車8キロ、鉄道4.9キロと比較的長い。

なをこの両線はまもなく三セク化する予定で、JR西が150億円の支援金を出すことを検討している。

■何よりも産業・雇用を

一時越中は日本一住居が広く住みやすいといわれた。そこそこ農漁業工業も観光資源もある。しかしながら人口減/社会減は止まらない。雇用が少ない地方問題はここでも最大のテーマかもしれない。

美しき山河を鉄ネットワークする越中を忘れるなかれ。

*1: 高岡市役人と県庁役人の仲の悪さに驚かされた。当時の高岡市長は大蔵省キャリア出身

*2: ヨハネス・デ・レーケ(1842-1913年) = 内務省技術顧問。オランダ人の<お雇い外人>で1873-1903年間に二度来日し、多くの業績を上げている。ただし、この発言があったかどうかは説が分かれる。

*3: 23年12月クリスマス前にドカ雪が降った。そして本年1月1日は能登半島地震!

*4: ジェネリック医薬品のこと。どことも知れぬ製薬企業が「ぞろぞろ」と特許のきれた新薬を真似して同じ主成分の薬を製造・販売することから、ゾロ薬と呼ばれている。

*5: 三セク鉄道は東北本線でも、なんて変な名前をつけるのだろうか。キラキラネーム子供と最近の鉄道・駅名は変。

*6: 五箇山は民家建築で知られるが、加賀藩流刑地+軍事秘密だった。大学生の時、技術史先生が火薬の元になる加賀硝石を生産していたことを教えてくれた。